

第1回 特別研修会

日時：令和元年6月9日(日)
場所：ステーションコンファレンス東京
講師：河奈 裕正先生、塩田 真先生



高須 晃太 (愛知県)

令和元年6月9日、第1回特別研修会が総会とともにステーションコンファレンス東京にて行われました。あいにくの梅雨模様でしたが、今回は令和最初の特別研修会に相応しく、45名を越す先生方にご参加いただきました。演者は、前半には、神奈川歯科大学口腔インプラント科教授、慶応義塾大学医学部客員教授、慶応義塾大学ハプテックセンター客員上席所員の河奈 裕正先生と、後半には東京医科歯科大学大学院インプラント・口腔再生医学分野准教授の塩田 真先生にご登壇いただきました。

河奈先生には、基本に忠実だと手術は確実に、早く、美しい～口腔外科手技の基本～というタイトルでご講演いただきました。序盤は現慶応義塾大学創設者の福沢 諭吉先生が、現慶応義塾大学医学部を創立した北里 柴三郎先生に送った手紙に登場する麻姑の手が孫の手の由来である(中国、西晋時代の書、神仙伝にある逸話に由来。蔡経という男が若く美しい仙女の麻姑に会った際、長く伸びた鳥のような爪で背中をかいてもらったら気持ちいいだろうと想像した所から)という話から、名指揮者カラヤンの話に始まり、良い姿勢で肘から先を柔らかく、指先までを繊細に使うことの大切さを熱心にお話しされました。ほかに切開デザイン、切開剥離、縫合、術後ケアなど安全確実にかつ効率を求めるために必要なことや、GBR術後に創が裂開しないために必要なことなど、道具や材料の選択に至るまで細部にわたり丁寧に教えていただきました。特に印象に残ったのは鑷子の選択とその特徴と使い方に関してのお話でした。歯肉弁を愛護的に扱うことの大切さを実感し、明日からの臨床に対する思いを新たにしました。

午後は塩田先生に、インプラントとその周縁という演題でご講演いただきました。

序盤には口腔インプラント学会での専務理事としてのご活動のご紹介から始まり、インプラント周囲粘膜を指す周縁でなく、インプラント治療を他の隣接歯学が取り巻く現状についてのお話で、論文など客観的データをもとにわかりやすく解説していただきました。その後、時代の潮流であるデジタルデンティストリーについても、ご自身が参加されたIDS(ケルン, スイス)でのご体験をもとにお話ししていただきました。

感銘を受けたのは、河奈先生のカラヤンのお話を受け、カラヤンという指揮者の人物像に触れられ、またご講演の合間にアングルの作品であるグランドオダリスクやドラクロワの民衆を導く自由の女神や、ヴィクトルユゴーのレ・ミゼラブルなど、随所に古典芸術を散りばめたスライド構成になっていたことでした。その後の専門的な内容に入っていく足がかりとして受講者が話題に入り込み易くなるように工夫がなされていました。

今回御二方のご講演を拝聴させていただき、エビデンスと基礎を大切に、1つ1つの手技を丁寧に確実に積み重ねることこそが長期の予知性に寄与できると、再認識させていただきました。

ご登壇頂いた河奈先生、塩田先生、そして今回の研修会を企画してくださった日本インプラント臨床研究会の諸先生方に心より感謝申し上げます。貴重なご講演をありがとうございました。